

平成21年度各会計予算等に対する各会派等の

意見表明「要」

自民党豊島区議団

平成21年度一般会計予算、5特別会計予算及び介護保険事業会計補正予算（第1号）に賛成の立場から意見を述べる。

21年度予算は、景気動向を踏まえた基本政策と重点政策がバランスよく融合する予算である。以下、款別に意見を述べる。

総務費では、地域防災無線のデジタル化の実施を。指定管理者制度は、行政と民間のギャップをなくし、制度が根付くように。福祉費・衛生費では、福祉タクシー券の不正防止策の構築を。児童虐待では、自治体間で情報を共有を。犬猫の糞尿の苦情には、NPOとの連携を。都市整備費では、区民に対して新庁舎整備について一層の理解を求めること。堀之内人道橋の早急な撤去と代替施設の建設を。文化商工費・教育費では、トキワ荘・並木ハウスは、NPOや地域と協働で、豊島区のアピールを。プレミアム付き商品券は、販売場所を増やすように。「ものづくりメッセ」では、小・中学生に体験機会を。学級経営に問題を抱えている先生に、教育委員会はバックアップを。図書館サミットで、子どもたちの作文が発表されたが、文学界の原石を見つけ出す取組みを要望する。特別会計では、国民健康保険料のコンビニ収納等の導入で収納率の向上を。

民主・区民

平成21年度一般会計予算、5特別会計予算及び介護保険事業会計補正予算（第1号）に賛成の立場から意見を述べる。

増分主義予算編成の見直しと歳入の確保を主眼に審査した。増分主義予算編成の見直しと歳入の確保を主眼に審査した。増分主義予算編成の見直しと歳入の確保を主眼に審査した。

以下、款別に意見を述べる。総務費では、収納システムの一元化やクレジットカード納税等への発展を期待。福祉費では、保育園の待機児対策で、他区からと本区からの園児数のバランスを考慮し、待機児ゼロを。衛生費では、豊島区健康診査センター閉館日の有効利用の検討と曜日・時間を問わない保健所の食中毒対応を望む。清掃環境費では、粗大ごみ「持ち込み制度」導入の推進を。都市整備費では、二輪車駐車場設置の対応策を。土木費では、高田小跡地を運動公園に。「染井よしの桜の里公園」を防災拠点とし、地域と協議を。教育費では、就学援助認定は人道的配慮をしつつ、不公平感のないように。学校での環境学習として「石けんの利用」を。国民健康保険事業会計では、「特定検診」等の受診率を目標値に近づける努力を。

公明党

平成21年度予算に賛成の立場から意見を述べる。

100年に1度の世界的な金融危機の中、区財政は41億円もの財源不足となり、厳しい財政運営を強いられた。しかし、区民サービスの水準を維持しつつ財源対策に取り組み、財政調整基金を取り崩すことなく予算編成されたことを概ね理解する。

以下、款別に意見を述べる。議会費では、区議会ホームページにキッズページの開設を。総務費では、定額給付金が区民の生活支援と地元商店街の活性化につながることを期待し、準備作業を。池袋駅周辺混乱防止対策では、エリアメールの導入を望む。福祉費では、発達支援プログラムの開発に努め、一貫した支援体制の整備を。衛生費では、乳がんの早期発見のため、自己検査グローブの配布を。清掃環境費では、太陽光エネルギー機器で専門の相談窓口設置を。土木費では、コミュニティバスのシルバークラスの適用や障がい者の運賃減免を。教育費では、子どもの読書活動で、学校図書館の充実のため、十分な予算の確保を。歳入では、特別区債の借金を減らす努力を引き続き行い、スリムで効率的な行政運営を望む。介護保険事業会計は、有料老人ホームの指導・監督を。

日本共産党

09年度予算は、①深刻な状況の区民生活を支える予算になっていない②大型開発優先で区民の暮らしにいわよせしている③財政運営が区民の願うものになっていないことから反対する。

①保育園や学童クラブは待機児が増えているが、新設等の具体的な解消策がない。住宅困窮者に必要な区営・福祉住宅の建設計画もない。緊急区民生活支援策はあるが、中小企業対策は不十分。生活保護世帯への入浴券60枚支給も復活せず、義務教育の私費負担は増え続けている。障害者施策は入浴サービスの回数減等、サービスを低下させている。

②LRT・東西デッキ・新庁舎建設・東池袋再開発等を含む池袋副都心ブランドビジョンを、進める予算である。後年度負担が大きく、他の施策も圧迫される。進めるべきではない。③予算枠配分方式や職員削減は区民サービス低下をもたらす。土地開発公社の借金を前倒しで返済する方針は変わっていない。区民需要を圧迫してまで借金返済を優先すべきではない。資格証発行で医療の機会を奪う国保、差別医療と高い保険料を押し付ける後期高齢者医療、喫緊の課題である特養ホーム建設が具体的となっていない介護保険、老人医療会計にも反対。

行革一〇番

一般会計予算及び後期高齢者医療事業会計予算には反対する。それから、他の特別会計予算には賛成する。後期高齢者医療事業会計予算に反対する理由は、あまりにもいろいろな問題点を含んでいるからである。

一般会計予算になぜ行革一〇番が反対するか、これについて述べる。豊島区議会には相変わらず、違法不当な公金の支出が存在する。前から申し上げてきたが、本会議・委員会に出席した場合、交通費という名目で3千円が一律支給されており、役所用語で費用弁償と言う。また、議員が行政の附属機関の会議に出席した場合、報酬が支給される。これらは二重報酬ではないかと考えている。それから政務調査費、15年度から17年度の3年間、総額2億円が情報非公開である。区民の納めた税金がなぜ情報非公開になるのか、この理由さえ明確に述べていない。このようなやり方が行われている以上、反対せざるを得ない。

一言で言えば、だれのために区政が行われているのか、この考え方の基本が豊島区には欠けていると強く感じている。

刷新の会

平成21年度一般会計、5特別会計及び介護会計補正予算に賛成の立場から意見を述べる。

本予算案は、世界同時不況の影響の中、大規模施設建設の先送り等で歳出カットを断行し、しかも区民サービスは低下させず、将来への備えである財政調整基金も取り崩さない、「身の丈に合った財政」と評価する。行政の基本は、福祉と教育。本予算案において福祉費は3分の1以上を占めるが、本当に支援が必要な方には適切に、そうでない方には毅然とした態度を持ち、税の不公平感が生じないような対応を要望する。教育費は、西池袋中学校の建替え経費等により12・6%増えているが、今後も学校改革計画を進め、よりよい教育環境を整備するよう期待する。また、少子化対策を更なる検討事項として要望する。

太陽光発電普及のための補助金割合の見直しなど、環境分野での大胆な政策誘導、区独自の文化資源であるトキワ荘と並木ハウスに光を当てたプランなど、福祉と文化の融合においても、今後の展開を期待する。引き続き、人件費の削減や行財政改革の姿勢を貫き、「入り経費を計り出さずを制す」という原則を堅持し、将来のビジョンを見据え、自信を持って区政を運営していくことを要望する。

